

かつて、石狩湾新港は「大きな釣堀」と揶揄された時代があります。正直、当時は私も「こんな大きな港にいつ船が入ってくるんだろう」と思いました。しかし今、11万トン級という巨大なLNGタンカーが入港すると、回頭するのが大変なんです。世界の船はどんどん大型化し、効率化し、合理化しています。これからはそんな大型船のサイズに合うような“水面”が必要になります。

また、近代化により港湾はコンテナの時代になってきています。石狩湾新港は新しい港湾ですが、貨物の受け入れはまだ従来の荷役スタイルで、コンテナを意識していませんでした。そうしたことを考えただけでも、私たちにいま求められているのは、これから30年、40年先を見据えた港湾づくりの議論であり、新しい設備投資の絵を描くことではないでしょうか。

エネルギーの問題が今日ほど叫ばれているときはありません。そして、石狩湾新港

地域ほどLNGや洋上風力発電など、多様なエネルギーソースを生むことができる可能性をもった地域もないと思います。

港湾の近代化を図るためにも港湾で使うエネルギーは自分たちで作る、それもこれからは再生可能エネルギーを使う、というようなアピールが必要でしょう。

LNGは、-162℃という素晴らしい冷熱を持っています。まだ国内ではこの冷熱をうまく使った事業が成り立っていませんが、今後はこうした冷熱や雪、あるいは洋上風力などの大規模な風力発電が目目されるはずで

市民の皆さんから出される生ごみや下水道から出る汚泥も資源になります。今後は焼却ではなくバイオマスエネルギーとして使うということを含め、新港地域をスマートグリッド化していく。そのための特区も検討しています。

先端的な送電のノウハウや冷熱を使った新しい産業、風力を使った電力のあり方など



●プロフィール
石狩市長。石狩町役場から石狩湾新港管理組合へ派遣となり、石狩湾新港地域の発展に関わる経験を持つ。

は、最終的に企業のコストにつながる。だからこそこのプロジェクトには夢があると思えます。

行政側が政策によって施設をつくることも大切です。しかしそれ以上に、施設を必要と感じる人たちに港湾を牽引してもらう時代が来たとも感じています。コストに敏感な民間ならではの発想で「安いエネルギーを使おうじゃないか」「CO₂を出すものを使わないことを企業価値にしていこう」といった新しい価値の中で企業

活動が展開されてくると信じています。

かつて、「環日本海経済圏」という言葉が謳い文句になった時代があります。中国経済が今の10分の1にも満たないころの話です。これからは「環日本海経済圏」が、日本の貿易のリード役になっていくことは疑いないと考えると、その拠点に石狩湾新港がなることも夢ではないはずで

わたしたちはそんな近い将来を意識して、市民一丸となって議論し、そこを目指して取り組むべきではないでしょうか。

石狩湾新港第1船入港30周年記念式 石狩湾新港地域開発功労者表彰

石狩湾新港振興会 会長	山田 藤夫様	石狩湾新港外貿貨物利用促進協議会 会長	横山 操様
石狩湾新港企業団地連絡協議会 会長	阿部 仁様	北海塩業株式会社 会長	三原 清敏様
小樽石狩植物検疫協会 常務理事	橋岡 俊一様	三友プラントサービス株式会社 代表取締役相談役	小松 耀様
石狩湾漁業協同組合 代表理事組合長	相原 一男様	株式会社クマシロシステム設計 代表取締役	神代 順平様
石狩花畔土地改良区 理事長	中田 守様	北日本港湾コンサルタント株式会社 代表取締役	上原 泰正様
石狩市農業協同組合 代表理事組合長	吉田 久雄様	日本データサービス株式会社 代表取締役社長	白尾 宣彦様
石狩工業団地運営自治会 会長	阿部 孝司様		田中 實様
札幌臨港工業団地自治会 会長	小原 清水様	株式会社クマシロシステム設計 技術管理部 顧問	戸巻 昭三様
札幌新港西自治会 会長	田中 雄様		原 典夫様
石狩新港運送事業協同組合 理事長	杉本 守巧様		宮脇 憲二様
石狩新港機械金属工業協同組合 理事長	阿部 仁様		升田 昇一様
協同組合石狩新港卸センター 理事長	倉光 康雄様	株式会社ホッコン 取締役社長	芳賀 俊輔様
協同組合札幌インテリアタウン 理事長	横山 操様	株式会社丸愛ファニチャー 代表取締役	高橋 弘様
協同組合札幌テクネット 理事長	木野口 功様	有限会社北海道港湾経済研究所 調査役	槌屋 信之様

石狩湾新港これまでのあゆみ

出典／石狩湾新港管理組合発行「石狩湾新港」、石狩市HP

昭和48年

国直轄事業として本格的に港湾整備始まる

昭和53年

石狩市(旧石狩町)と北海道・小樽市による石狩湾新港管理組合の設立

昭和57年

東ふ頭木材岸壁が供用を開始する



◀第1船「ブランカレーニア号」が入港

昭和64年

木材輸入特定港に指定される

平成11年

植物防疫港に指定される

平成12年

動物検疫港に指定される

平成15年

重量物輸送が可能となる「港湾物流特区」に認定される
「リサイクルポート」に指定される

平成18年

石狩湾新港-サハリン航路の第一船が入港



◀多目的国際ターミナルの核となる西地区-14m岸壁が供用を開始する

平成22年

新規の直轄事業が可能となる「重点港湾」に選定される

平成23年

北海道電力(株)がLNG火力発電所建設地を石狩湾新港に決定したことを発表

石狩湾新港が「日本海側拠点港」に選定される

明治年間

ファンゲント、C・S・マーク、岡崎文吉、広井勇ら各氏により石狩湾に新たな港湾を建設する構想が立てられる

昭和47年

「石狩湾新港湾計画」が決定



石狩湾新港着工前

昭和63年

花畔ふ頭岸壁の一部が完成し供用を開始する

平成6年

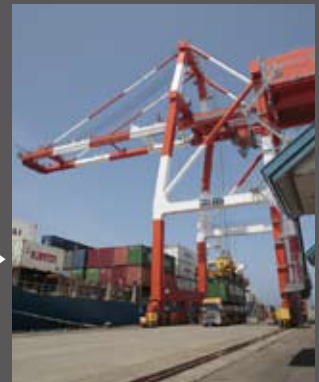
出入国管理及び難民認定法に定める出入国港に指定される
関税法に基づく港に指定され「開港」する
無線検疫港の指定を受ける

平成9年

韓国釜山港との間に外貿定期コンテナ航路が開設される

平成13年

花畔ふ頭にガントリークレーンを配備する▶



平成17年

検疫港に指定される
外航商船入港3千隻を達成

平成20年

北海道ガス(株)が石狩湾新港中央地区への石狩LNG(液化天然ガス)基地建設計画を発表▼



平成24年

LNG船第1船入港▶

